

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム サクラ
(ユニット名)	ユニット 3
所在地 (県・市町村名)	長崎県佐世保市八幡町1 - 2
記入者名 (管理者)	西山 澄子
記入日	平成20年9月30日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の運営理念「明るく 強く 正しく」をベースにグルホの理念「あったか家族」又、ユニット3のスローガンをして、今年度は「心おだやかに楽しめる空間づくり」を掲げている		
<input type="checkbox"/>	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所やホームの目につきやすい場所に掲示し理念の意識づけも兼ねて朝の申し送りに唱和している。入居者との関わりを大切に、おだやかに暮らして頂ける様な環境づくりを心がけている		
<input type="checkbox"/>	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	利用者やご家族には入居される前に、施設見学者等にもパンフレットなどで説明し、理念をつたえている。又随時グルホの新聞に掲載し伝えている		
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩に出かけ、近隣の人達と挨拶を交わしている。又、運動会や秋祭りなどのイベント時にはこえかけやポスターの掲示をして参加者も増え定着化している		
<input type="checkbox"/>	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の一員として、市民大清掃などの活動に参加している。又 地域の小学校や中学校、幼稚園との交流を深めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の小学校、中学校の生徒さんとの交流を通じ、高齢者の特徴や関わり方など学んでもらい、身近な暮らしに役だっていると思う		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員、業務の中で時間をみつけ、話し合ったり、意見を出し合ったりして自己評価し、又、改善項目についても取り組んでいる		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議で事業所のサービスや行事報告などを行い、参加者との意見交換等もおこない、サービスの向上に努めている		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の主催での研修や連絡協議会での勉強会や研修に参加してサービスの向上に努めている		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	介護支援専門員研修で学ぶ機会があり、必要な人にはそれらを活用できるようにしている		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は関連法について学ぶ機会があった。その資料を基に勉強会やミーティングの折に虐待が見過ごされることがない様、注意を払い防止に努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>面談を通して、契約内容、重要事項の内容を読み合わせ、十分理解して頂き、又、疑問点なども納得して頂き同意を得るようにしている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>させば介護相談員の定期的な訪問により、苦情、相談の窓口がある。相談内容についての処理体制、手順も契約書に文章化している</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>日常の様子や暮らしぶりや健康状態、金銭管理は、面会時に報告し、行事やイベント時の写真は各ユニット、各居室の壁面に貼っている。又、家族会等の時ビデオ映写を見て頂いている。年3回のサクラサク(グルホ新聞)にも掲載し、ご家族に配布している</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>各ユニットに相談員の写真を掲げている。利用者が入居される際相談員の受け入れを文書で同意を得ている。又、家族会などの場で家族さん同士で意見を述べ合う機会もつくっている。各ユニットにご意見箱も設置している。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員が行事、イベントなど発案、企画し、段階を経て主任会議の場で承認される</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>夜勤を含めた週40時間のローテーションで柔軟な対応が出来るような勤務体制になっている。公休や有休の希望もとれるようにしている</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>日常的にグルホ全体、レクレーション、行事等をおこない、利用者、職員同士のなじみの関係づくりを心がけており、職員の異動時も利用者へのダメージを防いでいる。職員も定着化している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	すべての職員が何らかの介護に関する有資格者であり、段階に応じ資格を目指している。機会あるごとに内外の研修に参加し、勉強会などで伝達研修も行っている		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会、介護支援専門員連絡協議会での研修会、交流会に参加、又、同業施設の運営推進会議への相互訪問、他施設への見学、体験を通して刺激を受け、サービス向上につなげる努力をしている。外部施設からの実践者研修の実習も受け入れお互い情報交換も行っている		GH連絡協議会でのスケジュールの中に職員の交流会を予定してある
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	レク委員の企画で、職員の慰安旅行、ボーリング大会などが実行され、又職員で気軽な意見交換、話し合いの出来る環境づくりを心がけている。		今年度中に前回好評だったバレーボール大会を予定している。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年度ごとに各人それぞれ目標を掲げ、達成できるように努力している。又半期ごとに評価を行い、努力や実績を確認しあっている		個人評価表を作成し、自己評価 上司評価を行い、段階に応じた研修受講やホーム内勉強会で知識を会得し、各人が仕事に対し自信と誇りが持てるように人材育成に取り組んでいる
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族的な雰囲気の中で、互いに心を開いて会話することにより不安や疑問に思っていることが解決でき、本人、家族との信頼関係が築かれている		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	親身になって話を聞く機会を作り、共感共有することで、困っていることや不安に思っていることが、解決できるような関係作りを実践している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込みを受けた時点から本人、家族の希望や状況を踏まえ、本人に合ったサービスを見極め、小規模多機能、老健、特養などと連携しながら、利用者にあったサービスが提供できるように努めている		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	一方的にサービス(入所)を押し付けることはせず、ご家族と十分に話し合い、利用者が自然にその場になじめる様に何度か施設を見学して頂いたり、一緒に食事をしたり、居室づくりなど雰囲気作りを工夫している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族的な雰囲気や、利用者の生活暦など踏まえて、残された機能が発揮出来る様に一緒に過ごしなが、互いに支えあう関係を築いている		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話での会話の中で、お互い状況を報告し合い解決策を見出し、介護負担の軽減につながる努力をしている		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には、お茶やオヤツ、イベントや行事時には一緒に行事食を召し上げて頂くなどして、ゆっくり過ごして頂き、より深い絆を結べるように配慮している		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前になじんでいたデイや美容室など、ご家族対応を含め関わりを続けられる様に支援している		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	その日によってテーブルの席や配置等にも配慮し、利用者同士が過ごしやすい居場所の確保が出来るように、食事の時は特にスタッフがさりげなく間に入り、良好な関係作りを支援している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	当ホームから他施設(同系列など)へ移られたり、医療機関に入院された後も、施設に逢いに行ったり、入院された場合などは、MSWなどからの情報を得て必要時、関係機関と連携を図っている		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り一人ひとりの利用者の暮らし方を重視して、ご家族が遠方で、困難と思われることも、本人の意思を尊重している		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人 家族から入所に至までの生活歴や生い立ちなどの聞き取りや関係機関からの情報、サービス利用の経過など把握している		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	基礎疾患や身体能力を把握した上で決して無理強いせずに出て来そうな事、出来ることを自立支援につなげている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者のちょっとした変化やいつもと違うなどスタッフの気づきを共有し、カンファレンスを行いプランにつなげている		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画を評価し、状況に変化が生じた場合、カンファを行い見直しを行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしを個別に各勤務帯ごとに記録している。同ファイルにバイタル、食事摂取量、排泄回数なども記録している。また服薬内容、副作用の情報として処方箋も綴じ込み実践に反映させている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	各ユニットに看護師を配置し、日頃に健康管理ができ、入院などの回避等が来ている。又夜間緊急時も母体施設の老健と連携で迅速に対応している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議の開催時、地域代表の民生委員、行政機関、利用者家族代表等との意見交換する場がある。又消防隊指導により避難訓練などを行い、各機関と連携を図っている		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同系列の高齢者支援事業所や他施設の介護支援専門員と連携を図り、情報交換を行い必要時活用している		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーとして参加して頂き関係が強化されている		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同系列に医療機関があり、2週に一度の往診を受けている。日頃より健康管理が出来ており、夜間緊急時も迅速な対応ができています		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	常に主治医と連携を図り、利用者の変化や疑問に思う事は相談し、指示を仰ぎながら治療や他科受診につなげている		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	各ユニットに看護師を配置し、日常の健康管理を行っている。看護師不在時も母体施設と連携を図り支援している		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した場合、病院関係者と情報交換と状況把握につとめている		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末については早期より利用者やご家族の希望を聞き、主治医と繰り返し話し合い、助言を頂きながら全員で方針を共有している		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度、終末期の利用者が穏やかに過ごせる様、心理面でのケアを大切に、主治医、ご家族、スタッフが協力し支援している		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	同系列に移られる場合、入院をされる場合等、細やかな情報を提供し、ダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねることがないように、対応に気をつけ、個人情報保護を日頃より徹底している	
51	<b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	自分の希望や思いをうまく伝えられない利用者や、介護者側の言葉を理解できない方もおられるが、その方に合わせて同じ事も繰り返し説明し、理解を得ている。又ご家族の協力も得ながら、納得しながら暮らしていけるように支援している	
52	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が集団生活の中で、日々出来る限り制約を受けることなく、自分のペースで暮らすことが出来るように支援している	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<b>身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎朝化粧をされる方もいらっしゃる、髪については出張美容師に頼まれたり、行きつけの理、美容室に行かれたりされる	
54	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事づくりや片付けなど出来る範囲で一緒に楽しみながらやって頂いている。季節の食材で行事食や誕生会など本人の好みを取り入れている	
55	<b>本人の嗜好の支援</b> 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の希望があればスタッフと一緒に買い物に行ったり、ご家族が持参されることもある	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	それぞれ利用者の排泄パターンを把握し、状況に合わせ声掛けをしている。失禁や失敗もさりげない介助で本人のプライドを傷つけないように心がけている。排泄回数の少ない方には補給方法として、牛乳やスポーツドリンクなどをゼリーにして摂取して頂いている		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回を決めているが、時間帯などは本人の体調や希望に対応するようにしている。夏場は特に足浴やシャワーは随時行うようにしている		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人が安心して安眠が出来るように、状況に応じて支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の生活歴、身体機能に合わせて出来る事の役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は、必要に応じ使われている。困難な方は預かり金規定に基づき、ご家族の同意の上、保管管理している		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的にはグルホ周辺への散歩やドライブを楽しんでいる。又墓参りやマッサージ買い物など希望に添った支援をおこなっている		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	少人数でのドライブや花見、日帰り旅行なども企画する。ご本人の希望でお寺や墓参り、昔の仕事場(炭鉱・船)など思い出のある場所へ出かけて楽しむなど。又家族さん同伴で外でランチしたり、孫の結婚式に出席される方もおられる		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればその場で電話されている。ご家族が遠方に居られる方には手紙を書かれることもある		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族の方と居室で話しされたりフロアでお茶を飲みながらくつろいだりされている。面会時間を定めておらず、何時でも来ていただける配慮をしている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束について認識し、拘束のないケアを目指し実践している。拘束委員会を設け定期的に話し合う機会がある		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関も鍵をかけずに自由に出入りができるようにしている		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人の所在、様子を常に把握し、安全に配慮している。スタッフの目を盗んでエレベーターを使用される方がいるがセンサーを設置し、さりげなく後ろからついていくことで安全に配慮している		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬、はさみ等は鍵をかけて保管し、必要な時に取り出している。台所、脱衣所は夜間施錠する様にしている。準夜勤、夜勤者はチェック表にて確認している		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止対策として勉強会で知識を学ぶ機会を作っている。行方不明対策として、チラシを作り、市・駐在所・タクシー会社・などに配り未然に防ぐ対策を取っている。防火訓練に関しても利用者を含め消防隊の指導のもと訓練を年2回実施している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成し、勉強会を開催し、対応の出来るように話し合っている。又主治医、協力病院に連絡できる体制を整えている		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回利用者と共に避難訓練、消火器の使い方を消防隊の指導のもと実施している。災害時の持ち出し品も2ヶ月に1回点検する様になっている。緊急時は系列の施設の協力を得られる体制となっている		災害時についても、火災時の訓練を活かして、地形などを考慮して、いかに安全に避難できるかを法人、消防署、地域等と密に検討していきたい
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクについては入居される際説明している。又家族会などの折、家族さんを含め全員で話し合っている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝バイタル測定、体調不良者には10時、15時、19時と測定し異変時は看護師 主治医へ報告し受診へつなげている。入浴時打撲、発赤、歩行具合などチェックして異常の早期発見に努めている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬内容(副作用)は把握できるように各人のファイルに綴じている。服薬管理の出来ない人はスタッフが確認して服用して頂いている		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防に向けて水分補給、毎日のメニューの中に乳製品や炊飯時に糸寒天を加え炊き自然排便を促す工夫をしている		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人一人の習慣や意向を踏まえ個別に働きかけや介助を行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好を把握し、取れたてで新鮮な季節の食材を産地直送で購入し、栄養バランスも配慮した献立で支援している		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	起こりうる感染症についてはマニュアルを作成し全職員が周知出来る様にしている。特に食中毒やノロウイルス感染予防については市の保健師の指導を受けている		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾やまな板は毎日消毒している。冷蔵庫内の掃除も週2回行っている。食材は西彼のとれたて処より週2回産地直送して頂き、新鮮で安全なものを使っている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関入り口には季節の草花を植えたり、休憩出来る椅子を置いたりしている。又手作りの看板で親しみやすい工夫をしている		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花やみどりを絶やさないようにしたり、手作りのものを飾ったり、テレビや音楽の音も不快にならないように調節している等居心地よく過ごせる工夫をしている		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広々したフロア内にも畳間やソファ、数個のテーブルや椅子があり、好きな場所で、気の合った利用者同士で過ごせる工夫をしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	鏡台や一人がけの椅子、家族の写真、鉢物など出来るだけなじみの物を持ってきていただき、利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	起床時、掃除の時など1日に何回か換気に気をつけている。冷暖房は利用者の様子を見ながら調節するようにしている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアにはテーブルやソファ、畳間など配置しているが、移動時に必要なスペースは確保して、安全でかつ、できるだけ自立した生活がおくれるように工夫している		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	出来ないことより、できる事を活かして見守ったり、さりげない介助で出来るだけ自立した生活ができるように支援している		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	屋上で花や葱、ゴーヤなどプランターに植えて利用者と一緒に水やりに行っている。外には畑があり、わずかではあるが季節の梅や野菜、花を植えて成長や収穫を楽しみにされている。又屋上のスペースを利用し気分転換や外気浴を楽しむ(レクリエーション)など心身のリフレッシュにも活かされている		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員全員が目指す介護の目標をもって、利用者が、心穏やかに自分らしく生活できるように環境づくりや、利用者一人ひとりに合わせた介護をこころがけています。又医療連携体制の確立で健康管理が充実し、安心して生活していただける様にサービスが提供できていると思います。